

結び目



00 Ground Level でつながる

今回私は Ground Level を街の基準という解釈をした。街の基準、それはすなわち街の中心となる場所ともいうことができる考えた。

人は様々なライフスタイルを持っている。普段の生活で異なったライフスタイルの人と関わりを持つことは少ない。同じ街に住んでいたとしても年代や職業、生活習慣が異なればつながりを持つことはあまりないと感じる。しかし同じ街に住むということは異なったライフスタイルの人が持つ一番の共通点だと思ふ。そこで街に暮らす一人一人がつながることができる Ground Level を提案したい。

01 人・まち・緑のシンフォニー「奏の杜」

千葉県習志野市に位置する奏の杜。2013年にまちびらきがおこなわれた新しい街だ。この奏の杜の中心地ともいえるのが谷津奏の杜公園である。この公園は街の多くの人が利用するため異なったライフスタイルを持つ人が関わっているかのように感じるが、実際は公園の用途も違えば利用する時間も違うためつながりを持つことは少ない。私はこの公園内に新たな Ground Level によってつながりをつくることのできるのではないだろうか考えた。

公園を利用する人々



↑ つながりのきっかけ

Ground Level



02 新たな Ground Level

公園の用途、利用時間が違うことは当然のことである。

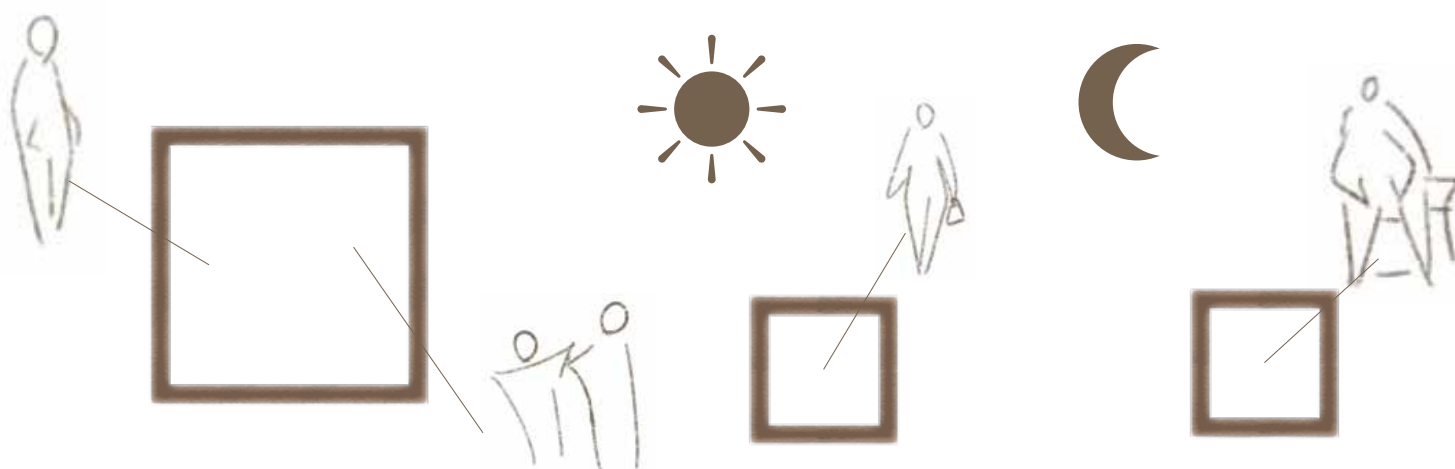
その中でつながりを作る場所、人と人の「結び目」となるもの考える。

● 直接的な結び目

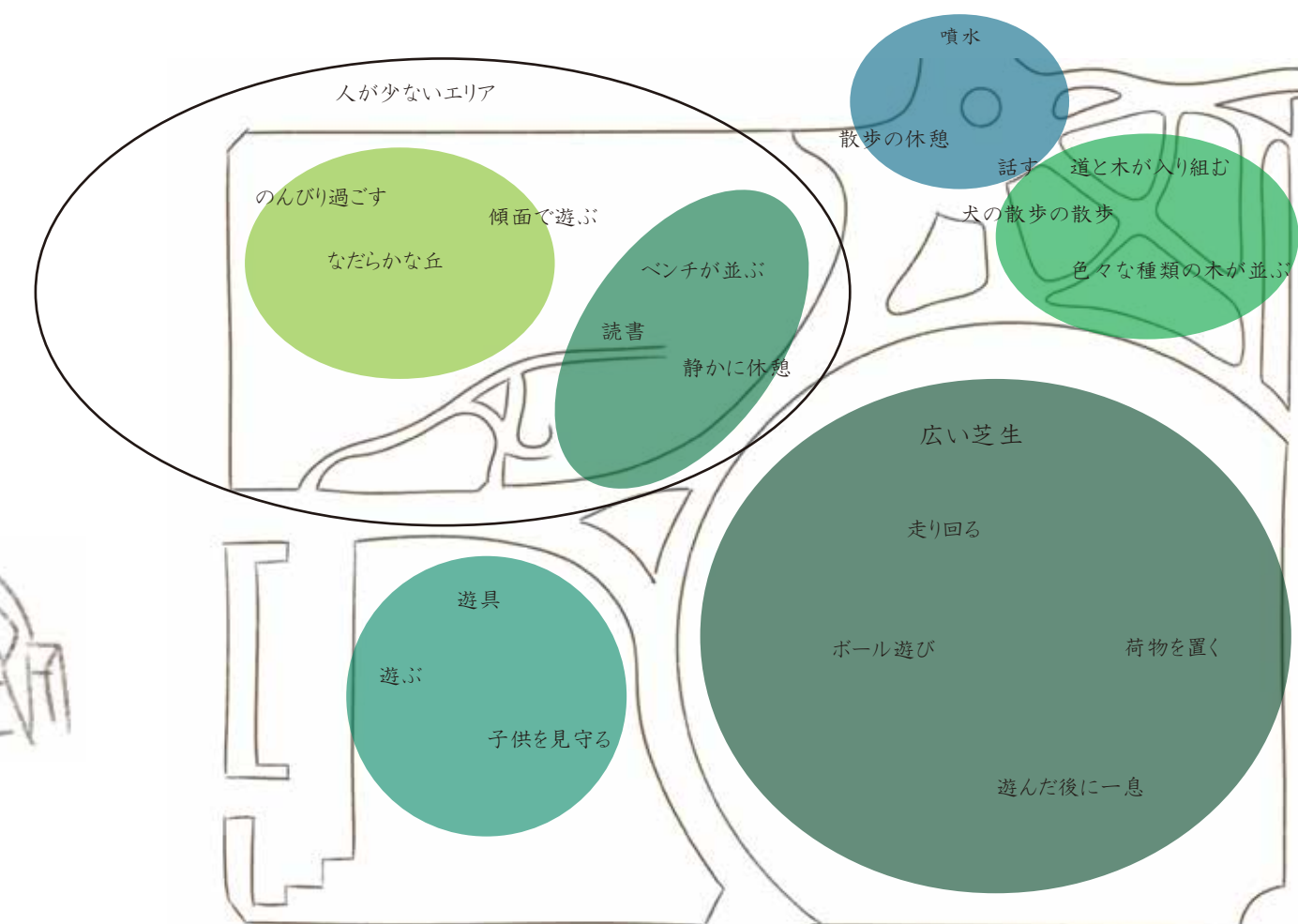
異なる用途の人でも使えるものをつくり直接的な結び目をつくる。

● 間接的な結び目

時間によって使う時間が違っても同じものを使い間接的な結び目をつくる。



03 ゾーニングと用途



↓ それぞれの場所と用途に合わせた「結び目」を考える。

04 用途と周辺環境に合わせた「結び目」

●用途に合わせ開放的なものと閉鎖的なものを考える

開放的なもの

閉鎖的なもの



●周辺環境に合わせたデザイン

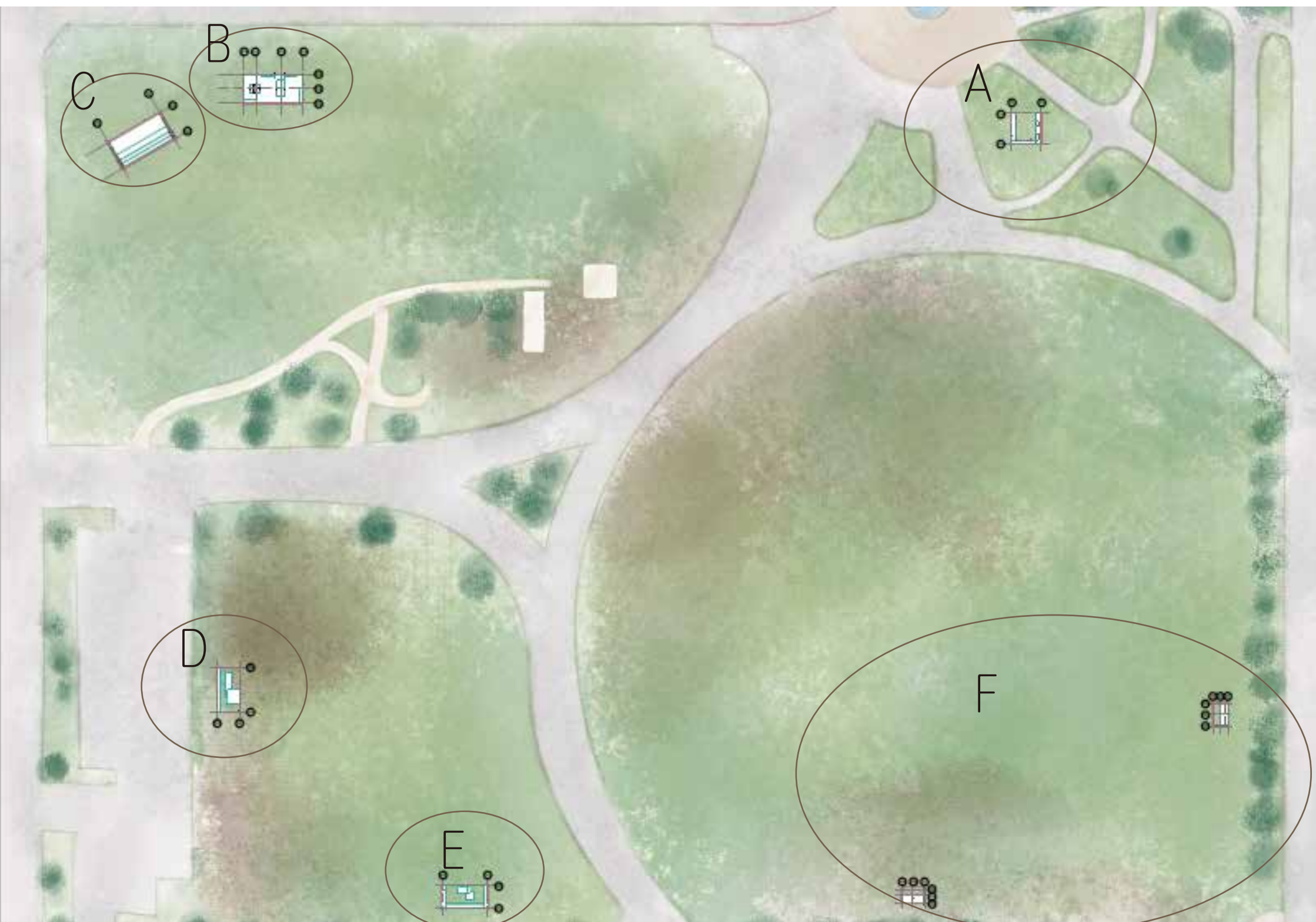
公園内の傾斜は最大15度、最小5度なのでこの角度に対応した勾配屋根を設ける。



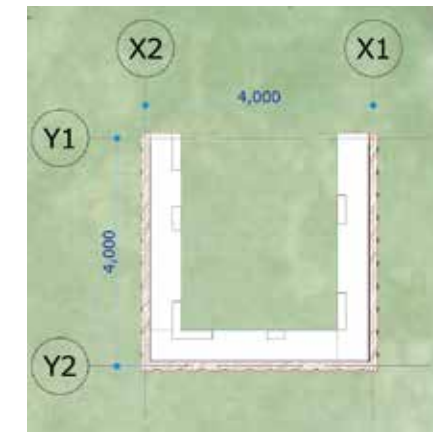
屋根、外壁の色は一般社団法人奏の杜パートナーズが定める「奏の杜景観ガイドライン」から以下の中色のみ使用する

色相	明度	彩度
R、YR、Y	6以下	6以下
GY、Y、BG	6以下	4以下
B、PB、P、RP		

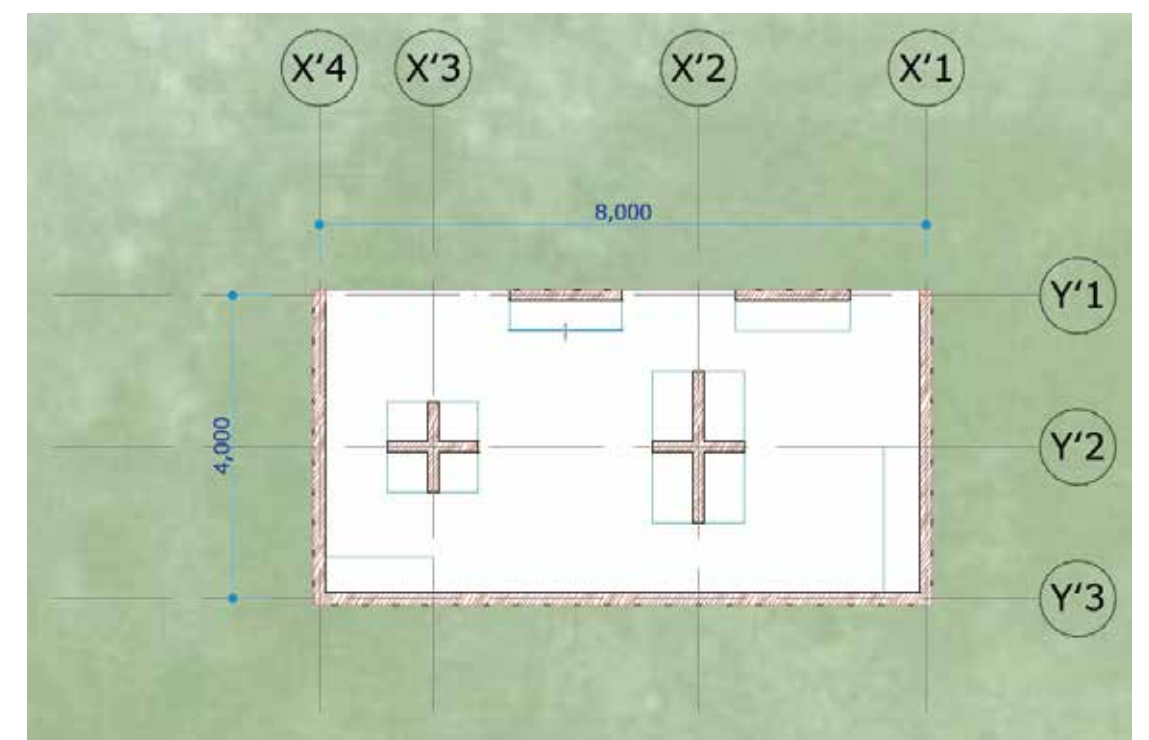
配置図兼平面図 S=1:600



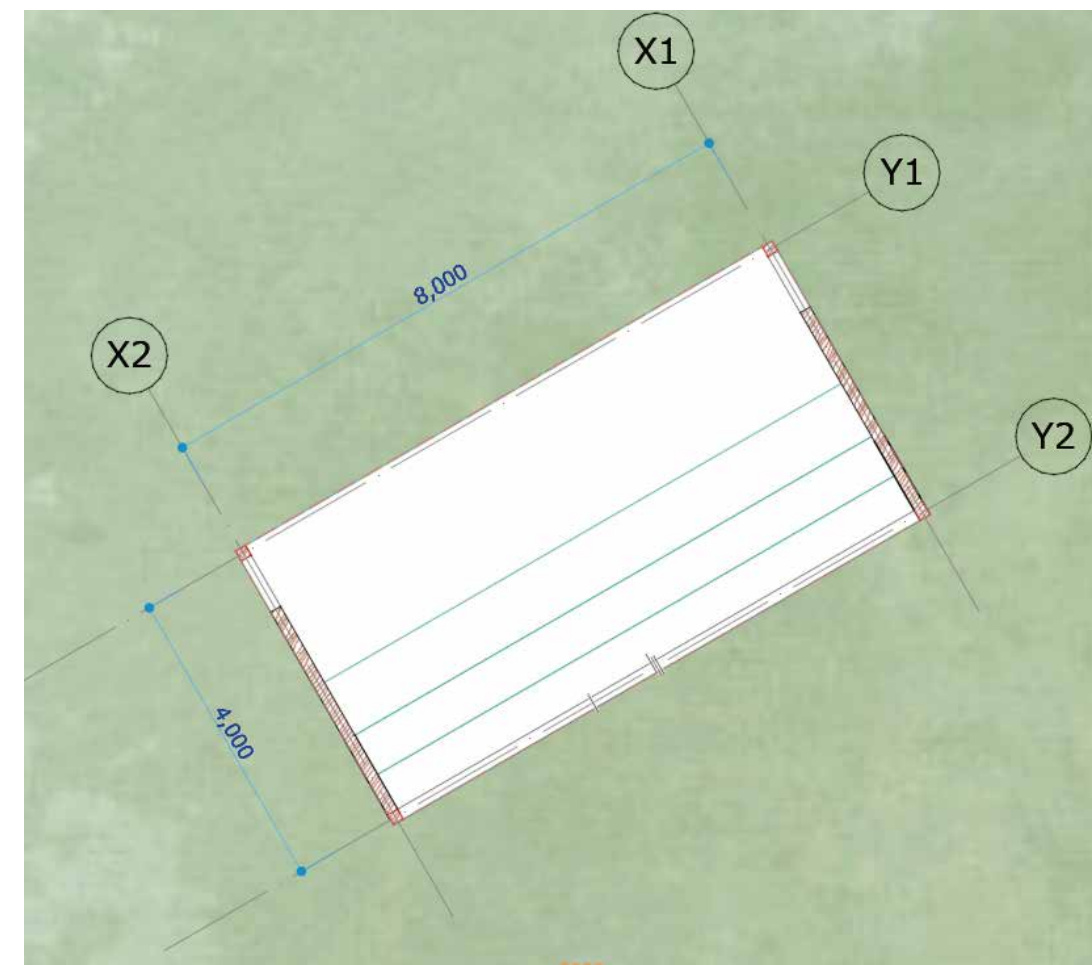
A



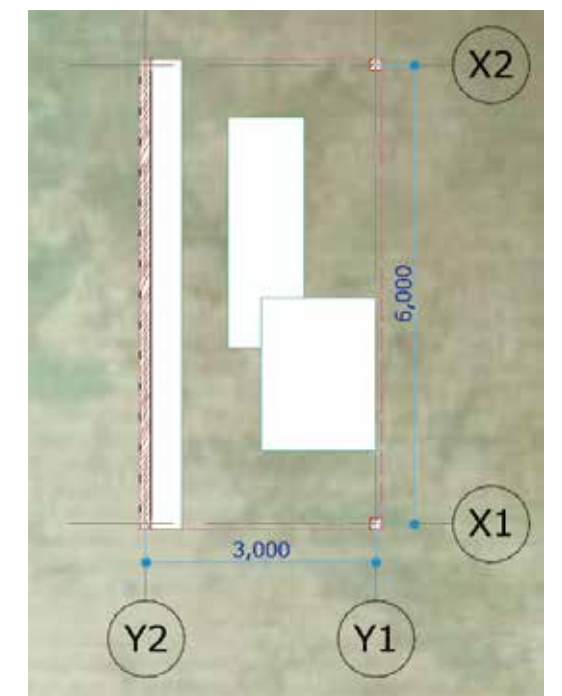
B



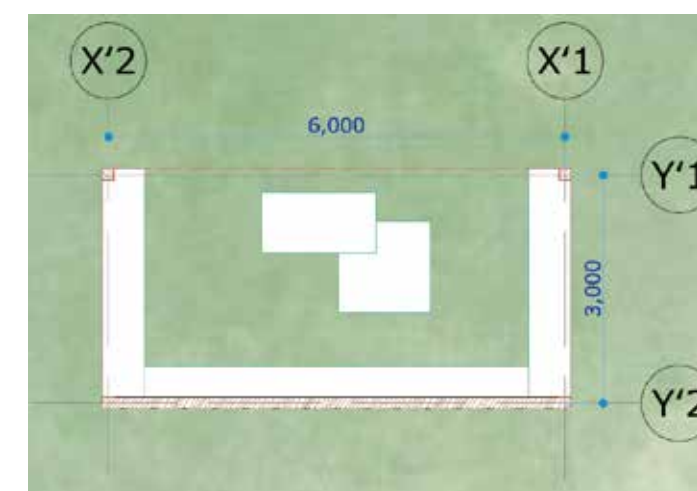
C



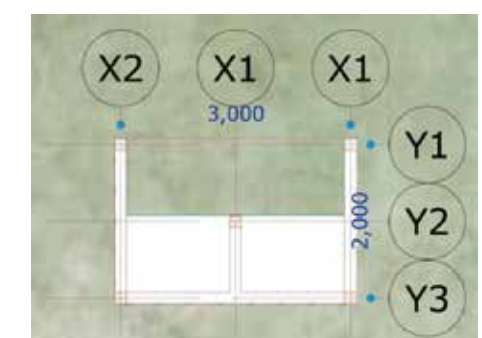
D



E



F



A～F地点平面図 S=1:100